

3. 生涯スポーツとしての子供達のヨット

現在はヨットの技術の他に人間としての教育が目的になっている。子供達と大人の交流を教え、人間的上下の関係や精神的な教育をし、函館ジュニアヨットスクールの教育の中で子供達が未来に向かって力強くはばたくことを期待しております。本日は誠にありがとうございました。

◎長谷川克也 氏 略歴

- ・1938年(昭和31年)6月7日 函館出身
- ・函館東高校、学芸大学函館分校(現教育大)
- ・ヨット歴 1954年～現在に至る

〈この間〉国体選手・監督数回、東京オリンピック競技役員

〈現在〉北海道ヨット連盟理事、北海道少年ヨット連盟副理事長

函館セーリングユニオン副会長、函館ジュニアヨットスクール校長

- ・現職 函館木材協会 事務局長
- 函館繊維製品卸商組合 事務局長
- 木材専門紙発行

(会報担当者:藤田 正男 委員)

◎ 出席報告

会 員 数	55名	出 席 率	函 館 北	10月13日	84.62%
出 席	23名		函 館 東	10月12日	83.13%
欠 席	32名		函 館	10月7日	80.14%
他クラブ出席	21名		函館五稜郭	10月8日	98.59%
出席合計	44名		函館亀田	10月11日	祝日休会
除 外 者	4名				

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

<p>次回・11月17日 プログラム</p>	<p>「JRとダチョウビジネス」 JR函館支社長 木村 一郎 氏</p>
----------------------------	--



函館北ロータリークラブ会報

1999~2000年度 国際ロータリーテーマ

ロータリー2000:
活動は一 堅 実
信 望・持 続

ROTARY2000:ACT WITH
CONSISTENCY, CREDIBILITY,
CONTINUITY

小池 凌一 会長テーマ 『友 愛』



10月27日卓話 長谷川克也 氏

《第1750回例会》 第 16 回 11月10日 (水)

本日のプログラム

「夜間例会と第2回クラブアッセンブリー」

函館国際ホテル 午後6時30分

★会 長 小池 凌一 ★幹 事 阿相 義則

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 二子口ビル4F TEL23-3870

10月27日の記録

◎司 会 小池 凌一 会長 ◎斉 唱 それでこそロータリー

◎ゲ ス ト 函館ヨットスクール校長 長谷川克也 氏

◎ピジター 函館R.C. 秋本信幸君・藤井治雄君・木村一郎君

◎会長報告 小池 凌一 会長
○今回は特にありません。

◎幹事報告 阿相 義則 幹事
○当クラブ次週11月3日の例会は祝日休会となります。
○千葉港R.C. 15周年記念例会へご参加の会員へ日程と費用についてのご案内を致しておりますので、ご協力よろしくお願い致します。
○本日例会終了後、臨時理事会を開催致します。

◎親睦活動委員会 田畑 収 委員
ニコニコBOX投入報告

小池 会長……親睦活動委員長受付ご苦労様です。
阿相 会員……BOXに協力。
小笠原会員……"
森(秀) 会員……"
金子 会員……"
田畑 会員……元気で誕生日を迎えることが出来ました。
二葉 会員……喜びが重なりました。ゴルフコンペで優勝しました。もう一つは、うちのホテルのシェフが全道調理コンクール、西洋料理部門で金賞をとりました。
山崎 会員……お久しぶりです。

◎卓話 「ヨットについて」函館ヨットスクール校長 長谷川克也 氏

1. ヨットの出会いとヨット仲間達

子供の頃読んだ本に「15少年漂流記」という本があって、8才から14才位の子供達15人が、たまたま停泊していた大きなヨットにのって遊んでいた、というわけかアンカーとロープが外れ、大海原へと漂流し、猛烈な嵐にあって、ある島に流れつく、そこで、15人の子供達が色々生きるために冒険をしていくという物語ですが、それが頭の底に残っている状態でした。

そして入った高校にヨット部があって、始めてヨットに遭遇し、幸せにも高校・大学とヨットをやり、一般社会に入ってからその道に入ったもので、私にすればヨットが第1の人生で、それについてきた仕事が第2の人生となったような感じがします。

ヨットの歴史についてみますと、日本は外国に比べて歴史は浅く、一般にヨットについてのイメージを聞くと、

- お金がかかって、豪華な遊び。
- ちょっとなじめない、中に入っていけない遊び。
- 格調が高い遊び。

という感想が出る。では現在どういう人がヨットをやっているかというと、

- 仕事をリタイアして退職してからやりたいと思っていた人。
- 昔から乗ってみたいと思っていた人。
- 前からヨットというのはむずかしいと思っていた人。

このような結果であります。

仲間でもリタイアして、これから先、長い時間どうしてすごすか考えていた友人が、是非やらせてくれと頼まれ、1シーズン、約3ヶ月間、週1回の練習で、充分のれるようになりました。

その友人が、今度は本場の英国へ行って、ヨットを買って、ヨーロッパで10年位すごしてみたいと言って出かけ、希望通りヨットを買い、色々なハーバーを回ってきたのですが、1年位でひょっこりとヨットを持って帰って来ました。理由を聞くと、英語は多少話せるので、問題はないのですが、英国の生活習慣になじめなかったということでした。そして「日本の豆腐が食べたい」という単純な理由で帰って来たということでした。

その友人に英国のヨット仲間遊び方を聞いてみたところ、ヨットハーバーはあちこちにたくさんあり、会う人はほとんどリタイアした夫婦で、若い人は忙しいのでウィークデーはこれない、休日に子供達をつれて遊びにくる程度だということでした。

オーナーはリタイアした方が多く、おじいちゃん、おばあちゃんは毎日来てヨットを磨いたり、隣近所の人と話をしたり、和やかな雰囲気の中でヨット人生を楽しんでいて、日本のヨットの楽しみ方とは全然違う感じがするという事でした。

2. クルージングとレース

アメリカズカップとヨットの文化

遠出をして遊びに行く気軽なレジャー、クルージング、そしてレースではたいへん有名なアメリカズカップが来、2000年2月19日、ニュージーランドのオークランドで開催される。非常に歴史のあるヨットレースである。

発足したいきさつは、1851年、英国のロンドンで万国博が開かれた年で、当時の英国はたいへんな時代で世界を制覇している時代でもあった。国内ではたびたびレースを開催していましたが、アメリカのニューヨークヨットクラブに招待状を出し、アメリカでは最高級のヨットをつくって英国に行き、参加艇数15艇ほどで、ロンドン南西部のワイト島を1周するレースが開かれ、みごとにアメリカからたった1艇しか参加しなかったヨットが1着でゴールインし優勝カップの銀製の水差しをもらって、アメリカに持って帰ってしまったので、今度国際レースをしようではないかという話にむなり、1870年にニューヨークで始めてアメリカズカップを開催することになりました。これがこのレースの始まりであります。現在はニュージーランドにカップがあり、日本からは3回出場している。(艇名：日本チャレンジャー、船の長さ：25m、幅：4m、重さ：25t、機器類はハイテク化されており、このレースに出場するには1艇当たり30億円が必要とのこと。)